

歴史学科

人材養成および教育研究上の目的

歴史学科は、古代以来国際交流の窓口であったという、本学が位置する地域の特性を生かして、九州から日本史、世界史を見直す地域に根ざす視点と、九州を東アジア史、世界史の中に位置づける国際的な視点を併せ持つ教育と研究の推進を理念とする。少人数教育を徹底して行い、導入教育において大学生としての基本的能力を涵養するとともに、専門教育では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性を身に付けた人材の育成を目指す。また、専門分野の枠を超えた横断的な科目履修を通じて歴史を総合的に理解する能力を涵養し、もって、専門的な知識・教養と複眼的な思考力を兼ね備えた人材の養成を目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

広範な一般教養の修得を目指す人、また歴史学の専門知識を修得したうえで、自由と責任に基づく倫理観を備えた社会人となることを目指す人、さらに高度な歴史学の方法を修得して高度専門職業人を目指す人を広く受け入れます。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本史、東洋史、西洋史、考古学の4専修制をとっています。1年次では、専修に分かれず、初年次導入教育科目などの履修を通じて学修に必要な基本能力や歴史学の基礎知識の獲得に重点を置きます。2年次では、専修に分かれ、原典講読、基礎演習などによって各専門の基礎的な研究スキルの獲得に重点を置きます。3・4年次では、歴史学演習を通じて専門的な研究スキルの錬磨をはかるとともに、他専修の講義科目の履修を通じて幅広い知識・視野を身につけさせます。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

歴史学の幅広い知識と専門的な研究スキルの修得を到達目標とし、以下のような力を身につけた人に学位を授与します。

1. 日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学についての基本的な教養
2. 史・資料や歴史学の専門的な文献を正確に理解し、それに基づいて議論を展開する能力
3. 歴史学で培った知識、思考能力をもって、現代社会の課題と能動的に向き合う姿勢





歴史学科では、「卒業論文」を必修科目（8単位）とし、複数教員による論文審査と口頭試問を踏まえた厳格な卒業認定を行います。

